

7 月暦予定表

7 日 (火) セタ集会

8 日 (水) プラネタリウム (ようちえんにじ組)

※詳細は後日お知らせいたします。

11 日 (土) 職務会 (午前)

※家庭保育のご協力をお願いします。

16 日 (木) お弁当会

20 日 (月) 海の日 (休園)

☆防火消火避難訓練



8 月暦予定表



1 日 (土) おゆうぎ会 (午前)

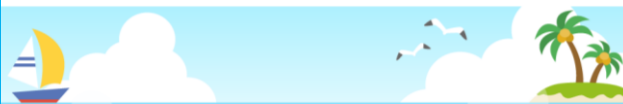
※詳細は後日お知らせいたします。

職務会 (午後)

11 日 (火) 山の日 (休園)

20 日 (木) お弁当会

★防火消火避難訓練



スイミングスクール

(3 歳児以上の希望者)

スイミングスクールと保護者との直接契約です。

※希望者は保育士へ問い合わせして下さい。

3 日 (金) ・ 10 日 (金) ・ 17 日 (金) ・ 31 日 (金)



お知らせ

- ・毎日 9:30 までに登園をお願いします。
- ・諸費とお薬は、連絡帳袋に入れずに保育士または、事務所へ手渡しをお願いします。
- ・持ち物への名前の記入をお願いします。

個人情報の為、削除いたします。





つみ木おじさんと楽つみ木のこと

風のうたでは、つみ木は毎日の環境の中に自然に置かれ、月曜日から金曜日まで、子どもたちが「続けてつくりたい」と思えば片づけなくてもよいというルールがあります。(金曜日の夕方に片付けをします)

作品は一日で終わらず、翌日また続きをつくることができる・・・

そんな“続きのある遊び”が、子どもたちの創造力や関係性をゆっくりと育てていきます。こうした日常のつみ木あそびがあるからこそ、先日幼児クラスで行った「楽つみ木広場」も、子どもたちにとっては特別でありながら、いつものあそびの延長線上にある自然な時間でした。

その姿を見ながら、私は“つみ木おじさん”として親しまれている荻野雅之さんがつくった「楽つみ木」のことを改めて思いました。

荻野さんは、国産ヒノキを使った楽つみ木を長年つくり続け、全国でつみ木広場を開いてきた木工家です。沖縄にも何度も来てくださり、子どもたちと一緒に大きな街をつくったり、海をつくったり、時には大人が子ども以上に夢中になって遊んだり——そんな光景を、私は何度も見てきました。

荻野さんの考え方はとてもシンプルです。

「あそびは学びそのもの」

「正解を押しつけず、子どもが自分で気づくことを大切にする」

「崩れることは失敗ではなく、次の創造の準備」

楽つみ木には説明書がありません。

どう積むか、何をつくるか、どこまで高くできるか・・・すべて子どもが自分で決めます。だからこそ、子どもたちは自然に考え、試し、工夫し、協力し、何度でも挑戦します。

風のうたの「楽つみ木がある環境」

風のうたの楽つみ木は、日常の中に息づいています。

今日つくったものを、明日また続きをつくる。

友だちの作品にそっとつなげてみる。

昨日の自分より、少しだけ高くしてみる。

こうした“続きのある遊び”が、子どもたちの思考を深め、関係を育て、創造力をゆっくりと広げていきます。



そして時々、みんなで一緒に楽しむ「楽つみ木広場」を開催します。

乳幼児期から児童期へと積み上がるもの

児童クラブの子どもたちの中には、つみ木おじさんがよく来ていた頃に保育園児だった子も多くいます。

彼らが今つくる積み木は、
とてもユニークで大胆です。



幼い頃に積んだ経験、
崩れた悔しさ、友だちと協力した楽しさ——
そうした記憶が、年齢を重ねる中で静かに育ち、形を変えて表れている
のだと思います。

小学生になった今も、彼らは迷いなく積み始めます。

「どうしたら倒れないかな」

「ここを支えたらもっと高くなるよ」

「こんなの作ってみようよ」

そんな声が自然に生まれ、遊びながら思考が深まり、関係が広がって
いきます。

幼児期から児童期へと続く“積み上げの時間”は、子どもたちの中に確
かな土台をつくっている。

経験も、考え方も、面白さも、ゆっくりと積み重なっていくのです。



つみ木は、心と心をつなぐ道具

今回のつみ木広場(らいおん・くじら・にじ)でも、子どもたちは友だちと相談しながら長い道をつくったり、誰かの作品をそっと助けたり、崩れたら「またやろう」と声をかけ合ったりしていました。

その姿を見て、私は改めて思いました。

つみ木は、子どもたちの心と心をつなぐ道具なのだと。

これからも、子どもたちが自由に挑戦し、失敗し、また挑戦できる環境を大切にしていきたいと思います。

そして、つみ木おじさんが教えてくれた「遊びの中にある学び」を、園全体で育んでいきたいと願っています。

子どもたちの「楽つみ木の物語」は、このあと幼児クラスのページへと続いていきます。どうぞ、その先に広がる子どもたちの姿をご覧ください。(らいおん・くじら・にじへ)



7月



ひよこ・うさぎだより(0、1歳クラス)



今月の目標

ひよこ

- ・ハイハイやひとり歩きで体を動かし、くぐる、のぼる、おる等の全身運動を楽しむ。
- ・暑い時期を健康で快適に過ごせるようにする。

うさぎ

- ・安全で楽しい雰囲気の中で、水、紙、砂、粘土等様々な素材に触れて楽しむ。
- ・水分補給をこまめに行い、健康に過ごせるようにする。

おねがい

◎すべての持ち物に名前の記入をお願いします。

洋服やタオル等の持ち物には名前の記入をお願いします。

また、文字が薄くなっているものもありますので、見直しをお願いします。

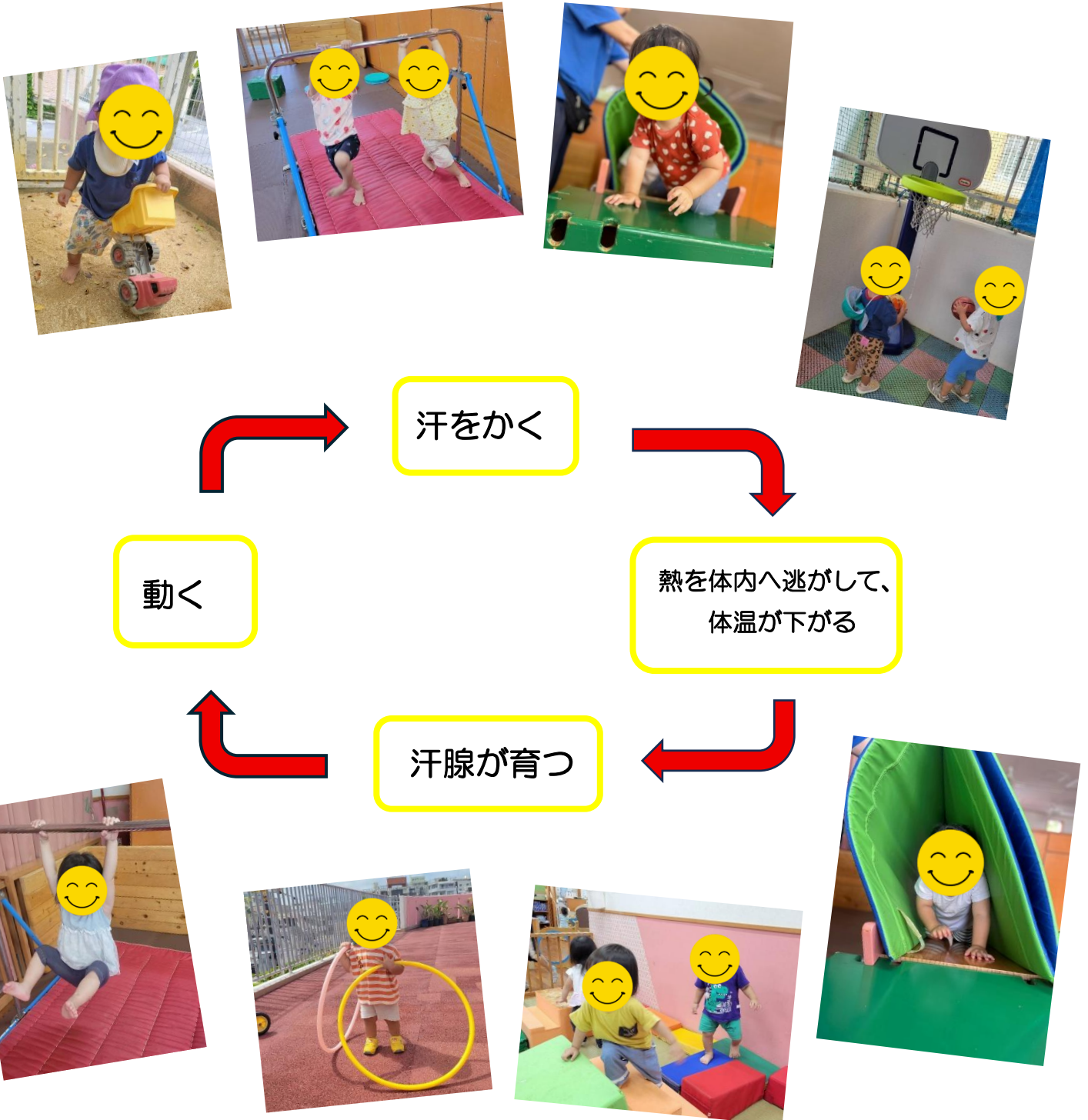
◎汚れてもいい服を☆

子どもたちの遊びは自由でパワフルです。動きやすく汚れてもいい服の準備をお願いします。

☆毎週日曜日は爪切り DAY☆

「汗」をかくと良いことがある！

汗をかく機能は3歳頃までの過ごし方でベースが決まると言われています。この時期に暑い環境で適度に汗をかいた子どもは、汗腺が発達しやすいとされています。逆に寒い地域で育つと汗腺は少なくなると言われています。汗をかいて「汗腺を育てる」際は、同時にこまめな水分と塩分の補給を忘れないようにしましょう。



遊びは生きる力そのもの

子どもは、今自分が伸びようとする力を感じ取り、それを遊びの中で何度も繰り返しながら、少しずつ獲得します。遊びによって子どもは、さまざまな力を身につけます。



遊びの中でこんな力を獲得していますよ。

1, 意欲、自発性

環境を探索して、「やってみたい」という意欲がわいてきます。



2, 社会性、人間関係の力

大人の真似をしながら社会に必要なスキルを獲得します。関わりによって言葉も育ちます。

じー

だれかかかれてる？



おおきくなったかな～？



3. 自己有能感、達成感

子どもが自分を信じる力を育み、「できた！」の積み重ねが大切になります。

よいしょ
よいしょ



できた！

紙おむつを片付ける
Yくん

4. 思考力、認識力

物の性質・形・大きさ・重さ・感触・数・空間感覚・原因と結果など...

ペタッ



つめた〜い



5. 情緒の安定

運動欲求、探索欲求、さまざまな欲求が満たされると、情緒が安定します。



かんがるー組クラスだより

今月の目標

- ・ 保育者や友達と過ごす喜びを味わう。
- ・ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを知る。



おねがい

- ・ 汚れても良い服での登園をお願いします。
(泥んこ遊びや、水遊びをする回数がふえてきます。)
- ・ お弁当会でのご飯は、食べやすいように、おにぎり🍙でお願いします。
- ・ 日頃から、爪チェックをお願いします。



今月は、かんがるーのお食事の様子を紹介します



食事の時間を楽しく、健やかに過ごすために大切なのは、

「姿勢」です。

足裏をしっかりと床につけ、背筋をまっすぐに伸ばして座ることで、咀嚼機能が発達し、脳の動きにもよい影響を与えてくれます💡

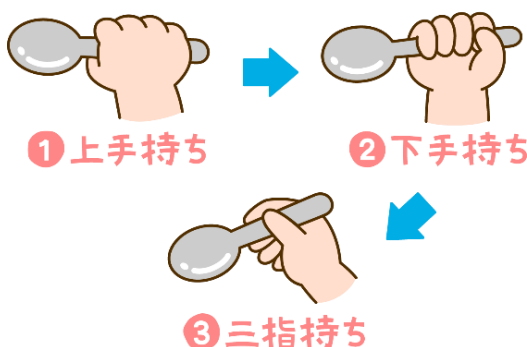
また姿勢が安定すると食べこぼしも少なくなり、食事に集中しやすくなりますよ！

スプーンやフォークの持ち方も少しずつ発達し、三点持ちに変わってきます♪

三点持ちが、おはしや鉛筆を使う際の基本となります。



スプーンのもちかた



持ち方を根気良く教えてやらせるのではなく、遊びの中で指先の発達を促し、その発達に合った持ち方ができるときに、方法を知らせるように関わっています。

かたはめ



アイクリップ



なぐり書き



など様々な遊びを通して指先の発達を促しています。

箸を持たせるポイント（急かさないで）

子どもの機能や経験が十分でないうちに子どもが持ちたがっているからといって持たせてしまうと、上手に持てず思うように使えないことでイライラしてしまったり、正しく持つことを諦めて握り箸になりがちです。また一度ついてしまった持ち方のクセはなかなか直しにくいものです。箸を持たせる目安は、スプーンやフォークを下手持ちで使いこなししっかり食べられていることです。

また食事の面だけでなく、絵画の際にも鉛筆やペンが正しく持てているかどうかのポイントの1つです。箸を正しく持つことで食べ物がつまみやすくなります。“つまめない”というストレスをなくして食事を楽しく楽しみたいものです。

箸を持つことを急かさず、箸を使って食べたいという気持ちを育て、そして十分に機能が備わったのちにスプーンから移行していくとよいでしょう。（発達がわかれば子どもが見える P112 参照）

みんなでたべるとおいしいね

味覚は成長と共に変わり、次第に様々なものをおいしいと感じ、ついには苦い味さえも好きになります。どうしてそうなるのでしょうか？それは美味しそうに食べている家族や仲間の姿を見ることによるそうです。共食することによって好き嫌いが無くなり食欲が増すのも人間の食の特徴のひとつだといえるでしょう。

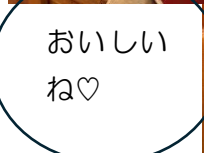
（保育としての「食育」 P126 参照）



わたしも
たべる〜



みてー
にんじ〜ん



おいしい
ね♡



お友だちや身近な大人と一緒に食べることで、苦手なものにもチャレンジする気持ちが芽生えます



活動の中で、幼児さんがクッキングした野菜の端材とパッションフルーツを使ってスタンプをしました。

スタンプをする前に、触ってみたい、においをかいでみたい、してましたよ。

活動中に食べることはできないので、食事の部屋に作品や写真を貼り、関連づけられるようにしています😊

梅雨明けたら身近な野菜を植えてみようかと計画中です！

五感で感じる食育





らいおん・くじら・にじ

クラスだより 🦁 🐋 🌈



7月の目標



らいおん組 🦁

友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気づき守ろうとする。

くじら組 🐋

自分の思いを友達や保育者に言葉で伝えられるようにする。

にじ組 🌈

友達との関わりを深め、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞こうとする。



子どもたちは、楽つみ木広場が大好きです。

広場のはじまりは、みんなで横になって受ける「つみ木シャワー」。

木のぬくもりがからだにふれて、「こんなのはじめて」

「わぁ、おもしろいね」そんな声があふれ、つみ木広場がゆっくりと動き出します。

つみ木を並べたり、積み上げたりするうちに、子どもたちのイマジネーションはど

ンドン広がっていきます。子どもは、気になったものに触れながら、その形や重さ、

特徴を自然とつかんでいきます。つみ木の大きさや形によって積み方が変わるこ

とも、自分で気づいていきます。

保育者は「こうするんだよ」と教えるのではなく、子どもたちが思い描いたものを

形にできるように、そっと寄り添います。





工夫しながら積んでも、積み木はときどき崩れてしまいます。

でも、そこで終わりではありません。「もっと高くしたい」「次はこうしてみよう」友だちと声をかけ合いながら、また挑戦する姿が見られます。





つみ木は揺れたり、倒れたり、思いどおりにいかないこともあります。
でも、その“くり返し”の中で、どれくらい積むと高くなるのか、どれ
くらいの量が必要なのか、子どもたちは身体ぜんたいで感じ取りながら
学んでいきます。

自分の背丈ほどの高さまで積み上げて、手が届かなくなると、イスを持
ってきて、さらにその先へ。友だちと相談しながら、「ここ持っててね」
「いっしょにやろう」そんなやり取りが自然に生まれ、みんなでつくり
あげる楽しさが、つみ木広場いっぱい広がっていきます。



自分の背丈ほどの高さまで積み上げて、手が届かなくなると、イスを持ってきて、さらにその先へ。友だちと相談しながら、「ここ持っててね」「いっしょにやろう」そんなやり取りが自然に生まれ、みんなでつくりあげる楽しさが、つみ木広場一杯に広がっていきます。

ある子がぽつりと言いました。

「楽つみ木って、くずれるけど、おもしろいんだ」

その言葉は、今日のつみ木広場の物語をそっと締めくくってくれました。



- 避難靴をまだ準備されていない方は、早めのご準備をお願いいたします。

また、持ち帰りの際は靴のサイズを確認して頂きますようよろしくお願いします。

（大きめサイズは転倒につながりやすいので、足のサイズに合った靴の準備をお願いします。）

- 園用帽子は必ず被って登園頂きますようよろしくお願いします。

- 日曜日は爪切りデー



子どもは大人よりも爪の伸びが早いので、こまめにチェックをしてきちんと着るようにならしょう。

- 水あそびが多くなってきます。ビニール袋のご用意をお願いします。



風のうた児童クラブ



7月の予定

7月17日(金) 1学期前半終了

7月18日(土)～ 夏休みスタート

7月20日(月) 海の日

児童クラブでは、毎日15:30から「お集まり会」を行い、職員が絵本の読み聞かせをしています。さらに月に1回のペースで「ブックトーク」も実施しています。

ブックトークとは、絵本や児童書などをテーマに沿って集め、短く紹介したり、必要に応じて一部分だけ読んだりして、「その本読んでみたい！」という気持ちを引き出し、読書へと誘う方法です。少し前には「りんご」をテーマにブックトークを行いました。



その中で子どもたちが一番耳を傾けていたのは『奇跡のりんご』でした。2013年に映画化された実話で、不可能と言われた無農薬でのりんご栽培に挑んだ記録です。

「家族でりんご農園を営む木村さんは、毎年農薬をまく時期になると奥さんが体調を崩してしまうことから、無農薬栽培に挑戦するのですが…」といったように、自分の言葉で紹介します。

この本は、一人で読むには早くて小学校5年生くらいから手が届く内容ですが、紹介してそばに置いておくだけで、「読んでみたい」と手に取る子が必ず出てきます。

ブックトークは家庭でも、1冊から気軽にできます。「読みなさい！」ではなく、自分が感動した本を話題にして、そっとその本を置いておくだけで十分です。

児童クラブ活動の様子



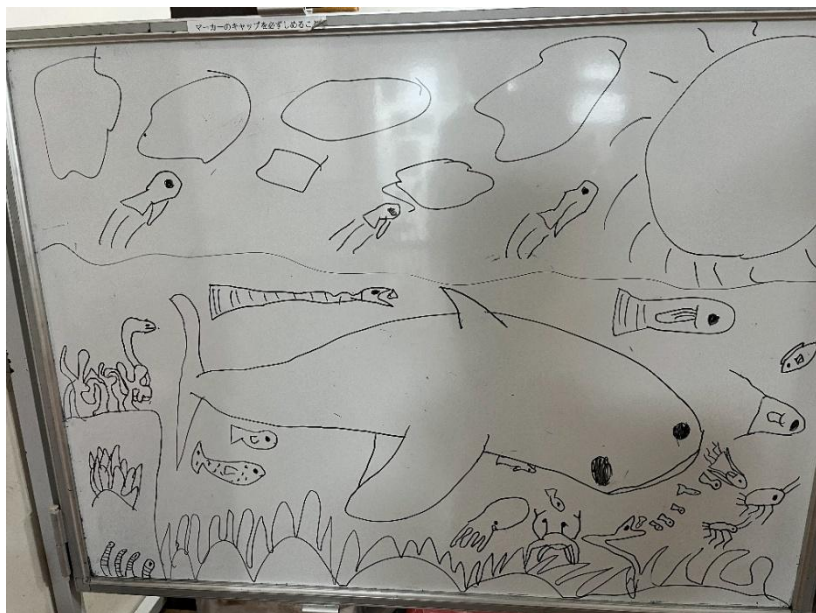
前回Nさんが成功した5連けん玉に
Mさんも挑戦 成功しました。

安謝児童館にて



Kくん、10連けん玉に挑戦

安謝児童館にて



ホワイトボード
いっぱい描いた
魚の世界